



修了証明書を受け取った先生方

## 保育者研修修了証明書授与式

### 保育者研修修了証明書授与式

10月31日、プロジェクトの研修受講を終えた保育園の先生方に向け、研修修了証明書授与式を開催しました。

神谷チーフアドバイザー(CA)、プロジェクトダイレクターのソマイヤ社会連帯省社会福祉局長、JICAエジプト事務所の松崎次長の3人から研修を修了した先生方一人ひとりに、修了証が授与されました(写真下)。

保育に活かしていき、また、今回の研修で学びが途切れるのではなく、引き続き自己研鑽を積んでいくこと。

○自分の役割を自ら限定してしまうのではなく、(子どもたちの)家族や市民社会との連携を大切にしていくこと。

○今回の研修での学びを子どもの発達(個性や自己肯定観、自己表現等)や、保育園における安全な環境づくりに積極的に活かしていくこと。

最後にソマイヤ局長からのメッセージ。

保育者が果たす役割はとても重要で、保育者は明るい未来をつかっていく(国の発展を担う)子どもたちの発達を支援していく仕事です。

### 先生方からのプレゼンテーション

授与式終了後、プロジェクト対象5地域より選ばれた2人の代表が研修を通じて学んだことをどのように日常の保育活動に活かしているのかを発表しました。



自園での保育の様子を伝えるスエズのスハさん

### ミニ講義:室内保育環境を考えよう

修了証明書授与式後、室内保育環境を考えるミニ講義を実施しました。

保育室に十分なスペースがない、Activity Roomがないといった理由から、コーナー保育や簡単な運動あそびを室内で実施することができないという声を聞くことがあります。そこで、子どもが使う机を固定して配置するのではなく、保育活動により室内の環境構成を柔軟に変えてみるアイデアを先生方に伝え、それを実現するための一案として、日本の保育現場でも見かける積み上げ式の子ども用机を紹介しました。

今後、積み上げ式子ども用机を製作し対象園の先生方に実際に使用してもらうことを計画しています。



保育室の室内環境について話す長谷川専門家

### 来年の研修予定

今年の研修を振り返り、改善点や反省点を明らかにし、社会連帯省とともに良い研修を実施していきます。



一番左神谷CA、中央ソマイヤ局長、一番右松崎次長、右から二番目エルグループ エルラヒマ保育園のヘバフセイさん

### ソマイヤ局長(プロジェクトダイレクター)がプロジェクトの対象保育園に期待すること

○(研修を通じて得た)自分自身の経験を同僚、家族、子どもたちに伝えていくこと。

○今回の学びを積極的に(日ごろの)



プロジェクトの研修が日ごろの保育活動にどのように役立っているか各地域内で発表会を実施。他地域間の連携・学びの共有を図る保育見学会を開催。

カリオベイヤ県の関係者がカフル エル シェイク県を訪問

Page 2

## 保育発表会、保育見学会

### 保育発表会

#### スエズ(10月2日)

○保護者との連携の重要性が分かり、今は月に1回、必ず保護者とのミーティングを設けています。

○子どもたちにペンを持たせるよりも、自由遊びを楽しんでもらうようになりました。

○以前は心配で子どもたちにハサミを使わせることはありませんでしたが、今は(ハサミを使った活動をしているので)ハサミの使い方が分かるようになりました。

○特別支援保育に関する講義を受け、自閉症の子どもと健常児の子どもの違いが分かるようになりました。また、自閉症の子どもへのかかわり方も分かるようになりました。

(エル テフル エル モスレム保育園より)

#### ポートサイド(10月3日)

○特に「子どもの栄養」の講義が勉強になりました。「子どもの栄養」の講義受講後、保護者の方々に集ってもらい、食育の先生を呼びながら食育イベントを開きました。イベントでは野菜をたくさん持ち込み、子どもたち、保護者に野菜の大切さを説明しました。

(オモ エル モエミン保育園より)

### カフル エル シェイク(10月11日)

○カフルではコーナー保育の講義がとても人気がありました。コーナー保育をしているとき、子どもたちは自由に好きなコーナーに行き遊べるから面白いと言っています。(レアヤート エル ターレブ保育園より)

○子どもたちに好きな絵本を選んでもらい、先生は子どもたちが選んだ本を読みます。最近、子どもたちは自分で物語をつくり、つくったストーリーを友達の前で発表しています。(ダカルト保育園より)

### 保育園見学会

#### カフル エル シェイク県関係者がカリオベイヤ県を訪問

ホスト役となったガネット エル アトファール保育園の代表者から、保護者との関係を築く上で示唆に富む事例が紹介されました。「子どもの栄養」の講義で学んだことを園で実践しようとしたところ、保護者から失笑があったというのです。



保育園見学会の様子

栄養の専門家でも医者でもない保育者に教わることはないと保護者は思ったそうです。そのため、まずは保護者からの信頼を得るためのワークショップを開き、研修での学びを基に子どもが口にする食事の大切さや、子どもに適した具体的な食事を保護者に丁寧に説明することに力を入れ、最終的には保護者の理解を得ることができたとのことでした。エル アトファール保育園から話を聞いた他園参加者は、自分の園でも同様の問題があると言い、エル アトファール保育園のケースから自園での問題を解決する糸口を見つけたようです。

#### スエズ県関係者がイスマイリア県を訪問

ホスト役となったゴルフ保育園の代表より、新しい学期が始まる前に保護者とミーティングをもち、園の学期の計画や活動目標を伝えることで、保護者より良い信頼関係を築くことができたとの話がありました。また、園の予算不足により活動の幅が狭くなることが話題になると、スエズ支局子ども家族部長のサイダ氏より、スエズの保育園では先生が手作りのおもちゃをたくさん作り、子どもたちの遊びを豊かにしている事例が紹介され、双方にとり学びの多い保育園見学会となったようです。

日本の保育の仕組みを学ぶため、エジプト就学前教育関係者(社会連帯省・カイロ大学幼児教育学部)が来日。



研修修了後の研修生と関係者

## 本邦研修の報告

社会連帯省サハル大臣アドバイザー、カイロ大学アーテフ幼児教育学部長を団長とするエジプト政府高官が、神谷CAとともに日本を訪問。厚生労働省、横浜市、学芸大学、鶴見短期大学、そして、5か所の保育現場を訪問しました。



横浜市役所での講義



保育園での視察・意見交換

日本とエジプトでは、保育行政の仕組みが大きく異なります。日本では保育園運営に対する国・市町村の関わりが強く、また、遊びを通じた学び、子どもたちの自立につながる保育者の細かい指導、環境づくりを行政が全面的に支援していること等を学びました。行政と保育事業者との協働関係が強く印象に残ったようです。

サハル大臣アドバイザーは、家庭的保育事業に強い関心をもっており、訪問先では日本家屋の暖かい雰囲気の中、畳の上で遊ぶ子どもたち、その子どもたちを暖かく支える保育者の姿をみて、エジプトでの家庭的保育導入に強い意欲を示していました。家庭的保育を担う保育者の資質、保育者の家族の理解を得ることの必要性、(保育士が悩みを抱えた際に)互いに相談できるネットワークの大切さなどを知る貴重な機会となりました。

アーテフ学部長は、教育人材の育成、教育研究において日本で主導的役割を担っている東京学芸大との協働に向けた意見交換、同子ども未来研究所の取り組みに大変刺激を受け、今後の共同研究、エジプト版子ども未来研究所設立、学生交流に向けた取り組みを本格化させたいと力説。学芸大からも前向きな話がありました。プロジェクトでは、今回の訪問で築かれた絆を強めるための支援をしていきます。

サハル氏、アーテフ氏の間では、エジプトにおける保育人材育成に向けた取り組みを一層強化していきたいという強い連帯の意識が生まれています。新しくつくられた保育基準、カリキュラムを踏まえた保育研修コースの開発など具体的な行動が期待され、プロジェクトも支援をしていきます。

短い滞在期間にたくさんの講義、視察、意見交換が実施され、参加者からは、日本側の丁寧な受け入れ準備、調整があって滞りなく研修が実施されたことに何度も謝意が示されました。研修資料を修了式時にデータとして渡すところまでフォローする心配りに驚いていました。研修(自治体の機能、保育の量的拡大等)に使用したデータ(日本語、アラビア語)は、提供してくれた組織の許可を得られたものをECD-EGYPTホームページで見られるようにしてあります。

<https://www.ecd-egypt.com>

1週間の短い研修期間では日本の美しい秋を堪能する時間はありませんでしたが、鶴見大学横の曹洞宗大本山總持寺、学芸大の自然豊かなキャンパス、横浜ベイエリアの街並みの下で写真をパチリ。異文化を感じてもらえたようです。



家庭的保育現場を視察中のサハル大臣アドバイザー



12月5日、JICA  
エジプト事務所にて  
合同調整委員会  
を開催。



合同調整委員会の様子①

## プロジェクト関係者が一堂に会しました

12月5日、JICAエジプト事務所にてプロジェクト関係者が一同に会し、下に掲げた議題に基づき意見交換を行いました。

1. プロジェクト現況報告
2. 2018年度本邦研修報告
3. 社会連帯省ナショナルプログラムの進捗報告
4. プロジェクトの今後の計画
5. 2019年度保育者研修(エジプト国内実施)



合同調整委員会の様子②

「プロジェクトの現況報告」ではプロジェクト活動を映像化したビデオを基に、神谷CAよりプロジェクトのこれまでの活動と現在実施中の活動が報告されました。また、「2018年度本邦研修報告」では、サハル大臣アドバイザーより、エジプトと日本の保育・幼児教育施策の違い、本邦研修から得た学びの説明がされました。

(日本では政府や地方自治体が保育

園を財政的に全面支援している点がエジプトの保育事情と異なる等) また、サハル氏からは社会連帯省が実施するECD(Early Childhood Development)ナショナルプログラムの進捗状況が報告され、JICAプロジェクトと連携しながらナショナルプログラムを進めていく予定であることが説明されました。

ECDナショナルプログラムでは、保育園の質を保証すべく、National Quality Standardsやカリキュラムの作成に取り組んでいます。プロジェクト内で現在作成を進めている「保育活動集」は、ECDナショナルプログラムと連携を取りながら作成を続けており、社会連帯省のECDプログラムで実施する活動、JICAのECDプロジェクトで実施する活動が同じ目的を共有しながら今後も展開されていくことが確認されました。「プロジェクトの今後の計画」では、保護者を対象に食育や親子体操をテーマとした(啓発)キャンペーンを今後実施していく予定であることがプロジェクトより説明され、続いて「2019年度保育者研修(エジプト国内実施)」では、社会連

帯省ナショナルプログラム下で計画される研修と同様の研修内容に修正した研修を実施していくことが会議の場で確認されました。



合同調整委員会の様子③

### 2019年の活動予定

- エジプト国内研修
- 本邦研修
- 保育園見学会  
(プロジェクト対象地域間)
- 保育教材作成
- 保護者(啓発)キャンペーン 等

### プロジェクトからのお知らせ

2018年10月よりカリームさんに変わり、バサントさん(写真右)が新しくプロジェクトチームに加わりました。

